

## 令和6年度 部局経営目標

年度	令和6年度	作成日	令和6年4月1日
部局名	蒜山振興局	部局長名	南 博晴
(1) 部局の役割・使命 (ミッション)			
<p><b>1 地域の特性を生かした産業振興【No9：産業と技術革新の基盤をつくろう】</b>          豊かな地域資源（風習文化・伝統工芸・自然景観・食文化・農林畜産物等）が次世代に引き継がれるようにブラッシュアップし、観光事業など産業に積極的に活用していくことで地域の魅力を全国に発信し、さらなる交流・定住人口の増加を図ります。</p> <p><b>2 地域の文化力の向上【No.4:質の高い教育をみんなに】</b>          自然・民俗の歴史を次世代に伝えるために蓄積するとともに、新たな文化及び芸術の創造に取り組み、心豊かな地域を目指します。</p> <p><b>3 市民と協働・連携したまちづくり【No.11:住み続けられるまちづくりを】</b>          市民との協働、連携によるまちづくりを推進し、地域課題の解決や地域活性化に向けて自ら取り組む地域づくりを進め、持続可能な地域社会の実現を目指します。</p>			
(2) 部局の重点施策			
① 地域みんなで子育てを応援する「こどもはぐくみ応援プロジェクト」	(1) 地域と連携した勝山高校蒜山校地の支援、里山留学による中和小学校の充実		
③ 市民とともにつくる持続可能な地域づくり	(1) 地域主体の歴史遺産を掘り起こし、郷土への愛着を生む		
④ 未来に向けた「回る経済」の推進と脱炭素への挑戦	(1) 「利用」と「保全」の観点において、自然と共生できる仕組みの構築 (2) 蒜山全域の周遊拡大と滞在型観光の推進		
(3) 事業成果目標		指標名及び目標値	
<p><b>●人口減少抑制対策</b>  <b>「生むこと・育てることを支援」</b>          ・母子手帳交付時及び妊娠中に、安心して出産できるよう相談や情報提供を行い、「生むこと・育てること」の悩みや不安を軽減します。          ・出産後は、早期に訪問し、子育て環境の確認や様々な不安や悩みを聞き、それに応じた情報提供を行い、適切なサービスに繋げ、地域で健やかな子育てができるようサポートします。          ・育児不安の軽減や子育ての孤立を予防するため、つどいの広場や親子クラブなどの情報提供を行い、子育て中の親子が地域とのつながりを持てるよう支援します。          ・事故や虐待から子どもを守るため、こども園、小中学校、民生児童委員等と連携をとり、地域で一体となった支援を進めています。</p> <p><b>3-1 地域と連携した高校魅力化及び里山留学の推進【再掲】</b>          学習交流センター（仮称）の建設が始まる勝山高校蒜山校地、里山留学のモデル事業が始まっている中和小学校において、地域住民と連携した応援体制の構築を図り、各学校・地域の魅力を高めます。          ・「蒜山校地を応援する会」のメンバーのみならず、応援したいと思う地域の皆さんと蒜山校地生との交流を図り、応援者を増やします。          ・里山留学においてホームステイタイプの留学生があった場合、緊急時の対応や情報を共有できる協議会の体制を構築します。          ・次期留学生募集の体験キャンプなどに、地元の方が講師として参加できる協力体制をつくります。</p>		指標：①つどいの広場（中和つどいの広場）の延べ参加者数 ②蒜山校地生との交流回数 ③留学協議会の会議開催数 目標値：①1,300人、②2回、③6回	

<p><b>●森の芸術祭関連事業</b>  地域内外の文化芸術関係団体や活動団体等のイベントと森の芸術祭が連携し、市内外からの誘客や交流を促進するよう連携支援を行います。  ・芸術祭賛同事業を関係団体と連携して実施します。(大宮踊、フラダンスイベント、さかなつかみ大会、蒜山文化祭ほか)  ・地域交流・学校連携として、交流イベントへの参加を促します。</p>	<p>指標:①森の芸術祭との連携事業開催団体数  ②参加啓発活動</p> <p>目標値:①4団体  ②2回</p> <p>新規</p>
<p><b>●生ごみ資源化対策関連事業</b>  ・生ごみ等資源ごみの分別に関する理解と取組を促進するため、蒜山地域内の各種団体の総会や研修会の機会を捉え、出張講座を積極的に開催します。</p>	<p>指標:①各種団体への出前講座開催数</p> <p>目標値:①10回</p> <p>新規</p>
<p><b>1-1 山焼きの承継と地域資源の新たな活用</b>  山焼きなどの草原保全や希少種動植物保護に取り組む蒜山自然再生協議会や市民ボランティア、NPO等と連携し、「利用」と「保全」の観点で自然との共生できる仕組みを構築します。  ・(一社)日本茅葺き文化協会や蒜山茅刈出荷組合などと連携して、ススキの茅材としての経済的活用を図り、持続的な草原の保全及び山焼きの継承を図ります。  ・山焼き・草刈りなどの体験活動には、外部からの知恵と地域の力を連携した学びの場づくりを推進し、地域内循環の大切さを共感できる関係人口の増加を図ります。  ・失われつつある湿原の保全再生整備を実施します。  ・郷原漆器やガマ細工の原材料確保体制を構築し、伝統工芸の振興を図ります。</p>	<p>指標:①学びの会開催、②学びの会等参加者、③茅材の生産</p> <p>目標値:①6回、②180人、③1,000束</p> <p>(令和5年度実績値:①14回、②390人、③730束)</p>
<p><b>1-2 蒜山全域の周遊拡大と滞在型観光の推進</b>  自然景観・文化活動、伝統行事を積極的に報道機関等へ発信し、地域全体への誘客と交流人口の増加を目指します。また、蒜山全域の観光施設における面的つながりを形成し周遊効果を高めるとともに、滞在時間を延ばし、経済効果の向上につなげていきます。  ・蒜山高原自然広場「風のパレットHIRUZEN」については、より美しい景観・安全性が高まるよう整備して誘客を図ります。  ・蒜山高原におけるサイクリング観光を推進するため、観光事業者等と連携し、サイクリングロードの点検・利用者の満足度向上につながるイベントを開催します。  ・蒜山高原ライディングパークでは、蒜山地域と馬との歴史や、馬とのふれあいの場を観光資源として広報していきます。  ・津黒高原荘と周辺施設の関係者と行政とが連携して、体験型観光や教育旅行の体制づくり、及び津黒高原観光の将来のあるべき姿をイメージできるよう、各施設の整備方針や目指すべき方向性を協議していきます。□</p>	<p>指標:①報道依頼回数、②蒜山地域の観光客数、③レンタサイクル利用者数</p> <p>目標値:①30回、②2,000,000人、③10,000人</p> <p>指標変更  (令和5年度実績値:①24回、②1,987,738人、③3,023人)</p>

<p><b>2-2 博物館を活用した地域主体の歴史遺産の掘り起こし</b></p> <p>蒜山郷土博物館と地元住民との協働により蒜山地域特有の歴史遺産を掘り起こし、観光活用を図るとともに「郷育」教材の一つとしての価値を見い出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習課と連携して、聞き取り調査の内容を企画展示に活用し、研究内容としてまとめたものを図録として発行します。</li> <li>・地元住民と協働して歴史の掘り起こしと活用の検討を行うことで、地元の方が自らの手で地域の歴史について知り、考える機会を生み出し、郷土への興味や愛着を育む「郷育」を推進していきます。</li> <li>・史跡を巡る歴史を明確にすることで、蒜山地域の歴史の変遷を解明し、「郷育」の拠点及び観光資源としての博物館の活用を図っていきます。</li> <li>・博物館の研究成果を活用して、大宮踊の啓発を実施します。</li> </ul>	<p>指標：地域聞き取り調査</p> <p>目標値:企画展開催回数 2回</p> <p>(令和5年度実績値：2回)</p>
<p><b>3-1 地域と連携した高校魅力化及び里山留学の推進</b></p> <p>学習交流センター（仮称）の建設が始まる勝山高校蒜山校地、里山留学のモデル事業が始まっている中和小学校において、地域住民と連携した応援体制の構築を図り、各学校・地域の魅力を高めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「蒜山校地を応援する会」のメンバーのみならず、応援したいと思う地域の皆さんと蒜山校地生との交流を図り、応援者を増やします。</li> <li>・里山留学においてホームステイタイプの留学生があった場合、緊急時の対応や情報を共有できる協議会の体制を構築します。</li> <li>・次期留学生募集の体験キャンプなどに、地元の方が講師として参加できる協力体制をつくれます。</li> </ul>	<p>指標：①蒜山校地生との交流回数 ②留学協議会の会議開催数</p> <p>目標値:①2回、②6回</p> <p>(令和5年度実績値:①1回、②4回)</p>